

# 茨木高校での生活を振り返って

京都大学総合人間学部 1 回生

茨木高校 73 期卒業生

本日は学校説明会にお越しいただきありがとうございます。本校卒業生として、みなさまが茨木高校に興味をもっていただいていること、大変うれしく思います。

私は茨木高校 73 期生ですので、現在中学 3 年生の方々がご入学された場合には 77 期生になられるということで、時間の流れのはやさに困惑しております。はじめ、茨木高校の先生にここでのお話を依頼していただいたときは、実のところ何を話せばいいのだろうかと少々戸惑ってしまいました。それでも、茨木高校で過ごした 3 年間で現在の私につながっていることは事実ですので、改めて振り返る良い機会と思い、私が高校生活で学んだこと、思い出深いことを話させていただきます

茨木高校では、さまざまなことに挑戦させていただきました。

はじめにメインで所属する部活として水泳部を選び、水球を始めました。体力を使うスポーツであることに加え、茨木高校は温水設備付きの 50 メートルプールがあることから他校をお招きしたり、水球の試合会場として利用されたり、中学生向けの水泳大会「茨高杯」を主宰していたりと運営面に携わることも多く、心身ともに成長することができました。

兼部先として、文芸部と現在天文地球科学部として活動している天文同好会に所属しました。文芸部では 3 ヶ月に 1 回ほどの頻度で出版する部誌に寄稿し、天文同好会では週 1 回の昼休みのミーティングと最終下校後の天体観測に参加し、水球との両立をすることができました。

2 年生の秋から冬にかけては特に充実した時期でした。10 月には天文同好会で文化祭の展示と大阪市立科学館でのイベント参加をし、11 月には人権委員会の幹部として人権講演会の講師の先生とのディスカッションに加わり、12 月には家庭科の授業の一環で小学生の親子に茨木市の魅力を伝えるワークショップの運営、1 月には茨木高校の伝統行事「妙見夜行登山」の実行委員長をするなど、今から思うとかなり忙しい日々をなんとかやりくりできるクオリティで頑張ったと思います。

2 年生の 2 月には、音楽会のフィナーレを飾るヴェートーベンの第九のソリストに立候補し、前年度ソリストを務めた 2 人が立候補している中、妙見夜行登山直後の心身ともに疲労した状態で挑みました。それでもとにかく楽しんで歌ったところ、ソリストに選出されました。半分やけくそで挑んだようなものなので、自分が一番驚きました。結局新型コロナウイルス感染症拡大により音楽会は中止されましたが、オーディションでのあの高揚感は時々思い出され、自分を奮い立たせてくれます。

ここまでお話して、お分かりいただけたと思いますが、私は高校生活のうち、最初の 2 年間は全く勉強していませんでした。

2 年生の 3 月に部活の友だちの応援を受けて、しぶしぶ勉強を始め、新型コロナウイルス感染症拡大に

よる休校期間のうちに、12年生の間の遅れを少しでも取り戻そうと基礎からやり直しました。6月に授業が開始されてからは、まず学校の授業を真面目に受けようと、授業の予習と復習に力を入れました。

少しずつ力がついていき、志望校の問題に挑戦することも考えましたが、どんな形式の問題にも対応できるように基礎力と総合力を涵養するための勉強を心掛けました。10月末からは、12年生のころから数学を頑張ってきた友人に、1日2～5問ほど面白い数学の問題をもらい始め、年末まで毎日続けました。その友人とは今、同じ大学でともに勉強に励んでいます。

2次試験前には、解いた数学や国語の過去問について友だちとゼミ形式で話し合ったり、先生に答案の添削を頼んだり、大切な人たちと励ましあったり、いろいろな人の力を借りて、受験を精一杯楽しもうと努力しました。

正直なところ、最後の1年間も猛勉強したとは言えません。しかし、根を詰めるほど勉強して、破綻してしまっていたのではないかと思うと、持続可能なクオリティで継続的に勉強を楽しめてよかったと思っています。

茨木高校は、自由な校風と言われます。自由というと聞こえは良いですが、自分のよって立つべき足場がないとも言えます。時には雰囲気や短絡的な欲望に流されてしまうかもしれません。そんな不安定な中でも、互いに励まし合える仲間や、その仲間とともにもがき苦しみながら、勉強や部活、委員会や行事運営、課外活動などさまざまな活動に挑戦できて、自分らしく頑張ろうとする人を尊重する環境が茨木高校にはあります。部活や委員会、受験で支えてくれた先生や友だちは、これからもよい関係を続けたいと思えるような大切な人たちです。

最後まで模範的な茨高生とは言い難かった私ですが、このような環境で3年間を過ごしたことが今の私につながっています。自分らしく努力する周りの人たちと、私自身の様々な挑戦のおかげで、自分の視野が広がってゆく楽しさを知り、現在、大学で理系文系の区別なくいろいろな分野に触れられる総合人間学部にも所属して、社会学と心理学と数学と哲学と、さまざまな分野の学問に親しみながら、新しくできた友人たちと充実した毎日を過ごしています。

茨木高校には一言では言い表すことのできない伝統が受け継がれていると感じます。伝統というと荷が重いかもしれませんが、仲間と励まし合いながら自分らしくもがき苦しんだ先で、少しずつその「伝統」がわかってきます。茨木高校の新しい伝統がこれからも切り開かれていくことを願っています。

私の話が少しでも参考になればうれしく思います。ご清聴ありがとうございました。

2021年11月20日 学校説明会にて